

ごあいさつ

会長 岩佐 幸恵（徳島大学医歯薬学研究部）



東京オリンピック・パラリンピック開催の年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）との戦いは継続しています。会員の皆様におかれましては、それぞれの立場でご尽力されていることと存じます。最前線で奮闘されている皆様には、心より敬意を表します。

さて、今年度は評議員選挙の年ですが、中国・四国地方会においても運営委員の選挙があります。これまでは、県単位で運営委員を選出しておりましたが、今回の選挙から地区ごとの選出に変わります。新しい地区割りは、岡山、広島、山陰（山口・島根・鳥取）、東四国（徳島・香川）、西四国（愛媛・高知）の5区です。次期運営体制を決める重要な選挙ですので、積極的に参加してください。

今、COVID-19のパンデミックをきっかけに、世界は大きく変わろうとしています。社会に大きな変化が起こり、変化が起こる以前とは同じ姿に戻ることができず、新たな常識が定着することを、ニューノーマルと言うそうです。感染予防のために人との接触機会を減らすことや、距離を保つことなど、生活様式の大きな変容が求められ、看護や医療の現場も例外ではありませんでした。今こそ看護におけるニューノーマルの構築に向けて、看護の英知を結集するときです。本地方会がそこに少しでも貢献できたら幸いです。

最後になりましたが、私の任期は来年3月で終わります。学術集会や総会をWebで開催することになりましたが、皆様のご支援ご協力によりコロナ禍にあっても地方会の活動を維持することができました。改めて御礼申し上げます。一日も早いCOVID-19の終息と、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

第34回学術集会がWEB開催されました

実行委員長 県立広島大学 松森 直美

第34回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会「地域創生時代を拓く看護研究」を令和3年3月7日から21日までWEB開催しました。

COVID-19の終息が見えない状況の中、開催半年前に現地開催からWEB開催に切り替えて準備を進め、各講演・シンポジウムの事前収録を行い、オンデマンド方式により開催することができました。研究発表は抄録の誌上発表とし、演題数は73演題（一般29題、学生44題）でした。演題の中にはオンライン授業や実習の代替えとなった演習の効果、不要不急の外出を控える自粛生活や学習意欲を検討する内容が含まれていました。参加者数は332名（会員104名、非会員52名、学生176名）で、WEB開催ならではのかもしれませんが、近畿、北陸地方の病院関係者の方々の参加もありました。地域を維持し創生していく時代に何ができるのかを考え、コロナ禍の中で取り組まれた研究成果を共有する貴重な開催の機会をいただき無事に終えることができました。地方会運営委員、前回の実行委員の皆様をはじめ、ご支援をいただいた多くの皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第34回学術集会に参加して

県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 渡辺 陽子

私は、日本看護研究学会中国・四国地方会第34回学術集会に、実行委員として関わらせて頂きました。オンラインでの開催であり、慣れない中での企画・運営となりましたが、学会開催に至るまでのプロセスを知ることができ、貴重な経験となりました。

開会後は参加者としてプログラムに参加させて頂きました。教育講演や特別講演を拝聴し、地域で生活する人を支えるためには、人を「看護する」ことについて、改めて学び考える必要があると感じました。シンポジウムでは、これからの看護職にはより幅広い視野が必要になることや、実践につながる看護研究という意識を持つことの大切さについて考える機会を頂きました。一般演題、学生演題では、コロナ禍で研究活動が制限される状況であっても、様々な分野の研究が発表されており多くの刺激を頂きました。

この度の学会を通して、生活に根付いた研究を行うことの大切さを改めて感じる事ができました。ありがとうございました。

●令和2年度事業報告●

1. 会員数

令和2年4月1日時点 879名

2. 第34回学術集会開催

実行委員長：松森 直美 先生（県立広島大学）

開催期間：令和3年3月7日（日）～3月21日（日）

開催方法：Web 開催

テーマ：地域創生時代を拓く看護研究

演 題：73 演題（一般29 演題、学生44 演題）

3. 令和2年度総会開催

日 時：令和3年3月20日（土）

開催方法：Web 会議

4. 委員会報告

1) 運営委員会

（1）第1回運営委員会会議 令和2年9月3日（木）、
Zoom による Web 会議

①第33回学術集会（徳島）の結果について報告された。

②学術委員会の活動について報告があった。

③広報委員会の活動について報告があった。

④第34回学術集会の準備状況について報告があった。

⑤第35回学術集会は鳥取看護大学（実行委員長：小村

三千代先生）で、令和4年3月20日（日）開催予定で準備を進めている。

⑥第36回の学術集会について話し合った。

（2）第2回運営委員会会議

令和3年3月1日（日） Zoom による Web 会議

①令和2年度事業報告

②令和2年度会計報告、監査報告

③令和3年度事業計画案

④令和3年度予算案

⑤第35回学術集会準備状況

（新実行委員長：内海知子先生）

⑥今後の学術集会について

⑦運営委員選挙の地区割り案

2) 学術委員会

（1）COVID19 感染拡大の影響によりセミナー等の活動を休止した。

3) 広報委員会

（1）令和2年度ニュース・レター No.28 を9月に発行し、住所不明者を除く会員883名に送付した。

●令和2年度会計報告●

【収入の部】

（単位：円）

費 目	2年度予算	2年度実績	差異
前年度繰越金	419,432	419,432	0
地方会補助金	458,000	439,500	- 18,500
学術集会準備金返金	300,000	300,000	0
雑収入	5	6	1
合 計	1,177,437	1,158,938	- 18,499

【支出の部】

（単位：円）

費 目	2年度予算	2年度実績	差異
事業費	20,000	6,600	- 13,400
郵送費	115,000	105,960	- 9,040
事務費	15,000	59,711	44,711
人件費	15,000	15,000	0
各種委員会活動費	70,000	0	- 70,000
印刷費	115,000	102,428	- 12,572
学術集会支援金	150,000	150,000	0
学術集会準備金	300,000	300,000	0
予備費	2,437	0	- 2,437
次年度への繰越金	375,000	419,239	44,239
合 計	1,177,437	1,158,938	- 18,499

●委員会より●

【学術委員会】

第35回学術集会「学術委員会主催セミナー」は、量的研究の「調査票の作成」をテーマとして実施に向けて検討中です。本セミナーは、会員の皆様と共に、研究活動を活性化するための研修の機会になることを目指していますので、Web 開催の場合でも会員の皆様と効果的な研修ができますように企画したいと考えています。皆様の研究活動に少しでも貢献させていただけますよう委員一丸となって取り組んで参りますので、ご指導ご協力の程よろしく願い申し上げます。

（委員長：小川佳代）

【広報委員会】

令和3年、ニュースレター No.29 をお届けします。まだ先の見えないコロナ禍が続いていますが、広報では今後も地道に会員の皆様へ必要な情報を発信していきます。

（委員長：津本優子）



●令和3年度事業計画●

1. 次期運営委員選挙

方 法：学術集会の開催方法に合わせて
2. 第35回学術集会開催

実行委員長：内海 知子 先生（鳥取看護大学）
 日 時：令和4年3月20日（日）
 場 所：鳥取看護大学
 テーマ：地域包括ケアの実践と検証
 ※開催方法については、新型コロナウイルス感染症の流行動向をみながら決定する。
3. 令和3年度総会開催

日 時：令和4年3月20日（日）
 場 所：鳥取看護大学
 ※開催方法については、新型コロナウイルス感染症の流行動向をみながら決定する。
4. 委員会活動
 - 1) 運営委員会
 - (1) 第1回

日 時：令和3年8月21日（土）
 方 法：Web 開催
 - (2) 第2回

日 時：令和4年3月19日（土） 第35回学術集会前日
 - 2) 学術委員会
 - (1) 第1回

日 時：令和3年8月21日（土） 運営委員会終了後～
 方 法：Web 開催
 - (2) 第2回

日 時：令和4年3月19日（土）
 第35回学術集会前日 運営委員会終了後～
 方 法：学術集会の開催方法に合わせて
 - 3) 広報委員会
 - (1) 令和3年度ニュース・レター No.29 を9月に発行、会員約1000名に送付する。
 - (2) 第1回

日 時：令和3年8月21日（土） 運営委員会終了後～
 方 法：Web 開催
 - (3) 第2回

日 時：令和4年3月19日（土）
 第35回学術集会前日 運営委員会終了後～
 方 法：学術集会の開催方法に合わせて

●令和3年度予算●

【収入の部】

（単位：円）

費 目	2年度実績	3年度予算案	差異
前年度繰越金	419,432	419,239	- 193
地方会補助金	439,500	439,500	0
学術集会準備金返金	300,000	300,000	0
オンライン選挙事務費用	0	420,000	420,000
雑収入	6	6	0
合 計	1,158,938	1,578,745	419,807

●令和3年度予算●

【支出の部】

（単位：円）

費 目	2年度実績	3年度予算案	差異
事業費	6,600	20,000	13,400
各種委員会活動費	0	70,000	70,000
印刷費	102,428	110,000	7,572
人件費	15,000	15,000	0
学術集会支援金	150,000	150,000	0
学術集会準備金	300,000	300,000	0
郵送費	105,960	110,000	4,040
事務費	59,711	15,000	- 44,711
オンライン選挙事務費用	0	420,000	420,000
予備費	0	3,745	3,745
次年度への繰越金	419,239	365,000	54,239
合 計	1,158,938	1,578,745	419,807

●日本看護研究学会中国・四国地方会 選挙管理委員会よりのお知らせ●

令和3年度より本地方会の運営委員は地区ごとに選出することになりました。選挙は電子投票で行います。投票受付期間は、令和3年10月1日（金）～11月1日（金）までです。詳細は、すでに送付いたしました公示文書をご参照ください。

一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会第35回学術集会のご案内

第35回学術集会は、2022年3月鳥取看護大学において開催させていただくこととなりました。地域包括ケアの実践と検証につながる内容で構成し、人口の最も少ない鳥取の地からその奮闘を未来へとつなげる希望をこめて発信させていただきます。

また、本学は少々不便な立地ではありますが、リモートの力も借りて、内容の充実を図ってまいります。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大によりご多忙の日々をお過ごしのことと存じますが、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

実行委員長 内海 知子（鳥取看護大学看護学部看護学科）

■プログラム

テーマ：「地域包括ケアの実践と検証」

会 期：2022年3月20日（日）9：00～16：30

* WEB開催の場合
3月6日～3月20日視聴期間（予定）

会 場：鳥取看護大学

鳥取県倉吉市福庭 854（交通アクセスは右図参照）

○教育講演

テーマ：「看護の未来を創造するアクションリサーチ
一人々とともに・人々のために」

講 師：筒井真優美氏（日本赤十字看護大学名誉教授）

○特別講演

テーマ：「看護の質を高めるリフレクション」

講 師：束めぐみ氏（日本赤十字北海道看護大学教授）

○学術セミナー

テーマ：調査票の作成（地方会学術委員会企画）

○シンポジウム

テーマ：地域包括ケアの実践－その未来と希望－

* 急性期病院や施設の看護職、基礎教育の立場などから討論を予定

○一般演題、学生演題

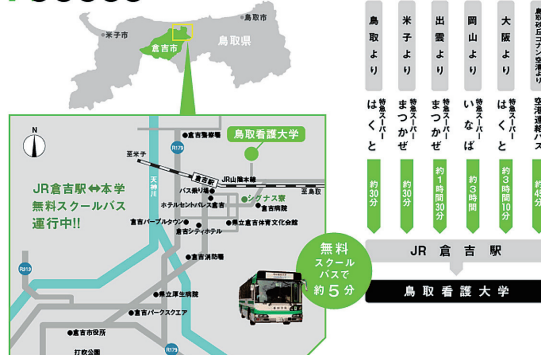
演題募集期間 2021年10月1日（金）～2021年11月30日（火）

事前参加登録期間 2021年10月1日（金）～2022年2月14日（月）

（WEB開催の場合）

申し込み方法 学会ホームページをご覧ください。

Access



写真提供：鳥取県

（社）日本看護研究学会中国・四国地方会第35回学術集会事務局

日本看護研究学会中国・四国地方会第35回学術集会実行委員会

鳥取看護大学看護学部看護学科 担当：内海・古都・出石

〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭 854

E-mail：35kenkyu.t@tcn.ac.jp

備考）第35回学術集会ホームページは準備中です。9月下旬開設いたします。



発 行 〒770-8509 徳島市蔵本町 3-18-15 徳島大学大学院医歯薬学研究部看護教育学分野内
一般社団法人 日本看護研究学会 中国・四国地方会事務局
発行責任者 会長／岩佐幸恵 広報委員長／津本優子